



ネパール・ミカの会

平成12年夏号 NO.12 2000.6.15発行

ネパール・ミカの会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 こもればい堂内 tel 042-793-4170



平成12年度活動にあたって

ネパール・ミカの会
会長 齊藤 謹也

今年が平成12年庚辰の年ですが、キリスト誕生を基にした西暦では2000年。20世紀最後の年となります。お釈迦さまの誕生を基とする佛紀では2566年です。西暦でいう世紀末。世の中、21世紀に向けて気持を切りかえてと、何か特別な年であるように思いました。しかし、邦歴や佛紀でいえば、普通の年。しっかり足元をみつめながら、夢に向かって一歩ずつ着実に歩みたいものです。さて、そのネパール・ミカの会の歩みの中で、第4次のネパール教育支援の旅が、無事終了し、四月桜まつりの参加や、ネパールのマテマ大使夫妻をお迎えしての歓談会などが開かれ、更に、「夢の記」の発刊など、例年通りの忙しい活動が始まっています。

第三回夢広場（町田発国際ボランティア祭）の準備にもかかりつつあります。事務局では、三月末までの国際ボランティア貯金の平成12年度分の申請や、報告の作成。町田市の海外交流補助金の実績報告書作りなどと、事務的な仕事も短期間の中でやりとげました。これが、なかなか大変な作業なのです。ようやく、申請し終わったとホッとしていると、郵政省からの問い合わせのFAX。12項目の質問に答えるだけでも、おおわらわです。又、つづいて、補助配分希望額2,986,975円に対し、財政事情が厳しいので、100万円位しかだせないかもしれない。その場合は、当初見込み事業は縮小するのか。計画通り行うのかといった厳しい再質問もありました。世は不況。世間は厳しいという事を実感しえるやりとりを平成12年度出発にあたって、かわしながら、きています。それでも、事務局の頑張りは驚異的です。全て無給にもかかわらず、本当によくやってくださいます。

正式発足四年目の春を迎えて、この活動奮闘ぶりは特筆に値します。是非、会員の方々は、この事務局の努力を認めて、ねぎらいの言葉をかけてあげてください。例年3月の支援の旅。完成式参列を中心とする旅に向けて、一年間の活動が行われるミカの会は、多少、他のボランティア団体と趣を異にします。



一方的な支援ではなく、私達自身も楽しみながら、学びながらの活動です。おおいに一年間の国内での活動を楽しみつつ、人と出会い、人の善意に酔い、その結実をもって、ネパールの山々、自然に親しみ、子ども達の笑顔に会いに行きましょうという会ですから、使命感によるという大上段の構えではなく、さわやかに肩の力を抜いて活動を進めたいものです。その感激を伝えるものとして「夢の記」があります。喜びが伝わるこの報告記を是非およみいただくようにと願っています。又、いまから日程を調整し、旅行費用の準備をしながら、旅の仲間に加わっていただければ

と思っています。ところで、お釈迦さまの生誕地ルンビニ既支援校は5校です。奨学金制度も5校分となります。又、タンセン地区の大学図書支援も大歓迎されていますし、セン小学校、モホン女子校との交流も活動が拡大しています。カトマンドゥの女子高図書及備品支援と昨年度の活動は多彩となりました。これに加えて、本年度は、シリ・マズワニ中学校建設（新設）、シリ・アジャリ小学校（増設）、マズワニ村医療保険センター（新設）を計画しています。各種助成金も厳しい事が予想されますが、その補助金配分頼みに落ちいることなく、会員全てが活動する事を柱として、柔軟に、楽しくやっていきたいと思ひます。皆様のご協力をお願いいたします。ただ、本音をいえば、会費以外に多少の支援費を上積みしていただければ有難いのだがなどと考えていますが、これは蛇足の感想です。

尚、ケガ、病気などの会員のご消息を聞く事がありますが、「心も大切」「身体も大切」にお過ごし下さい。また、個人的にグループを結成してネパールに行かれる方は、会までご連絡下さい。



4月8日さくら満開の穏やかな日にネパール大使ご夫妻が齊藤会長の薬田寺を訪れ、ミカの会会員と和やかに会食会を催しました。大使ご夫妻もリラックスされ日頃の支援活動への理解を相互に深めることが出来ました。更なる支援を心に誓いました。



第4次ネパール教育支援の旅

大谷 安宏

第4次ネパール教育支援の旅は3月5日～3月12日にラマ、モティ氏等を加え、総勢27名の大部隊で今年度建設落成の3小学校、新規支援、交流校をはじめ、過去3年間の支援実施先の全てを訪問した。移動時間の効率を計り、今回はじめてポカラ～ヴィラワ間のチャーター便を含め3回の航空便を活用したものの、全行程大変に忙しいスケジュールであったが、皆さん方のご協力により順調に計画を消化し、11年度活動事業の成果と12年度事業候補の確認し、現地の人々との交流を深めることができた。

参加者・組織

団長	齋藤	謹也	片岡	孟	田所	希佳子	大貫	洋子
副団長	坂	育夫	片岡	貞	和田	論子	岩崎	文子
記録	青沼	義信	後藤	栄	江波戸	玲子	藤本	裕樹
会計	松浦	陽子	加藤	未子	石川	健	ヌルブ	ラマ
医療	濱崎	ヤスエ	和田	邦子	東	繁雄	モティ	マハラジャ
事務局	和田	泰子	加藤	雅子	東	逸子		
"	大谷	安宏	増子	郁生	増田	加代子		

スケジュール

3 / 5 (日)	羽田～関空～カトマンドゥ	ヴィシャリH
3 / 6 (月)	カトマンドゥ～ポカラ(観光G) サンジャヤ小学校他視察	ブルーバードH
	～ダンプス(トレッキングG)ダウラギリ・ビュH	
3 / 7 (火)	ダンプス～ポカラ～ヴィラワ～タンセン	シリナガルH
3 / 8 (水)	トリヴァン大学理系校 トリヴァン大学文系校 セン小学校 モホン女子校 シリナガル・サイエンス校	図書(80冊)・計測器贈呈 図書(45冊)贈呈・歓迎式 図書(370冊)贈呈・交流授業 交流会 図書(81冊)贈呈
3 / 9 (木)	タンセン～ヴィラワ～ルンビニ シリ・グルワニマイ小学校 マホマディア小学校 シリ・アディアリ小学校 ルンビニ公園観光	法華H 校舎(3教室・1職員室)落成式・文具 改装工事確認・文具贈呈 校舎建設候補地視察
3 / 10 (金)	ルンビニ～ヴィラワ～カトマンドゥ シリ・マズワニ小学校 保健センター シリ・ルンビニ小学校 シリ・シリ・ラム小学校	ヴィシャリH 改装工事確認・文具等贈呈 中学校建設候補地視察 建設候補地視察 校舎(2教室)落成式・文具贈呈 校舎(3教室・1職員室)落成式・文具贈呈
3 / 11 (土)	カトマンドゥ パドゥマ・カニヤ・ビディヤシマ女子校 バクタプール観光	図書・書棚等贈呈・歓迎式
3 / 12 (日)	カトマンドゥ～関空～羽田	

第4回定期総会が下記のように開催されます

平成12年7月15日(土) 午後2時

町田市立中央図書館5F ホール

事務局・会計からの報告

四月一日、二日とほころび始めた桜のもとで桜祭りが開かれました。ミカの会ではネパール民芸品、バザー品、ネパールフライドポテト、チャイの販売をいたしました。たくさんの方々の協力で、テントの場所が悪かったにもかかわらずポテトもチャイも完売しました。また寄付金、バザー用の物品、教育支援の学用品、ジャガイモ25kg、はがき200枚等たくさんの援助もいただきました。厚くお礼申し上げます。

桜祭り会計報告

【収入】	
ネパール物品、バザー品	110,900円
ポテト、チャイ	50,280円
寄付金、募金	29,621円
収入合計	190,801円
【支出】	
出店料	20,000円
ネパール物品仕入れ	19,065円
ガスボンベ	3,000円
材料費	6,428円
支出合計	48,493円
【収益】	142,308円

支援金・募金をご寄付下さった方のお名前 2000・1-4月

井上美智子様、増田二江様、四葉会・高橋様、大谷安宏様、今村旭様、秦様、沼野和子様、工藤秀久様、山田良二様、斎藤謹也様、山下繁憲様、岡本恵子様、ひかりの子保育園様、築田寺様、支援金・募金合計 227,461円

品物をご寄付下さった方のお名前 (会員外のみ)

西山茂世様、根本紗恵子様、荒田春美様、林美恵子様、田辺敬子様、田中美規子様、田中栄子様、中村文具店様、ホワイトマックス様、(以上、江戸川区)黒岩千尋様、鈴木紀子様、広栄薬局様、村瀬勉様、井上淑子様、梅原信子様、並木和子様、鈴木美佐子様沼野なおみ様
ありがとうございました。



ネパールミカの会
Nepal Mika no Kai



ネパール・ミカの会

東京都町田市を中心にネパールの教育環境の整備を支援する会。2000年3月現在約100名の会員で結成され、町田市国際協会、町田市ボランティア協会からの寄付金を受領、ネパールでの学校建設、文房具、図書等の寄贈を行っています。又毎年3月には生徒、先生、児童を兼ねた現地旅行を実施しネパールを直に体験しております。援助の基本約束は直接援助を行う事を基本にしており運賃等などはほとんどボランティアで地元の良い活動をするよう心がけています。国内でも町田市国際ボランティア展、まぐろ祭りなど、に参加支援の機会をいただいています。

お知らせ	最新活動状況、3/13日ネパール情報をお知らせします。
ネパール・ミカの会について	活動内容の活動方針、活動、寄付金などを紹介します。
町田市国際ボランティア協会の寄付	寄付金受領の領収書として事務局までお知らせしています。
ネパールについて	ネパールを知って頂くコーナーです。情報更新サイトを紹介します。
ネパール写真展	会員のネパール写真展
ネパール教育支援の財	現在開催中3月12日開催情報・会長報告
ネパール・ミカの会会報	1998年夏号.pdf 1999年秋号.pdf 2000年秋号.pdf
国内、国際的活動を録音	まぐろ祭り、まぐろの祭典、国際ボランティア展など
ボランティア活動を通じて	ネパールでのボランティア活動のメッセージや援助の進行状況をレポート
会員のコーナー	会員の会員の活動、イベントを紹介しています。「夢日記」

update/ 2000.05.24

ネパール・ミカの会ホームページスタート

会員の皆様のご意見、作品、宣伝など何でも可能です。

分かりやすいパソコン教室
計画中です

<http://www.ssr.co.jp/mika>

e-mail mika@ssr.co.jp



第4回ネパール教育支援チャリティーボウリング大会盛大に開催される 2000.05.14 スペースレーン相模原

130名を越える参加者で恒例のボウリング大会が開催されました。
日頃ジャスコスペースレーンでボウリングを楽しんでいる有志の好意によって毎年開かれている大会です。小学生から70代のお年寄りまで幅広くネパールの教育現場の実状を理解していただき支援を頂きました。



齊藤会長始め、ミカの会会員もチャイのサービス、写真の展示、バザーそしてボウリングと楽しい一時を過ごしました。



ミカの会にチャリティー支援金として
¥263,277. が齊藤会長に手渡されました。
貴重な支援金に感謝すると共に責任の重さを感じます。今年度の校舎建設、図書支援など有効に活用されることを期待致します。





感動の第4次教育支援の旅が無事終了

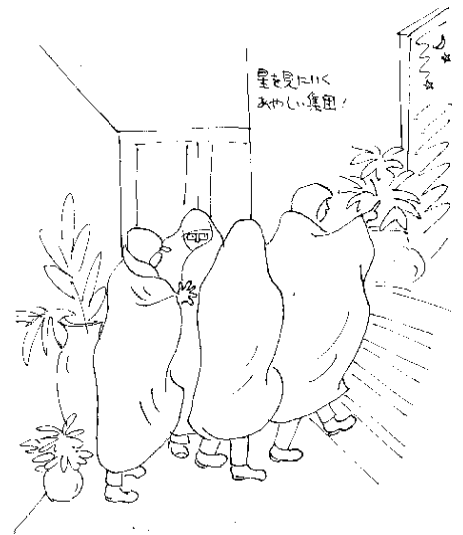
ハードスケジュールの中新たな感動をお土産に無事帰国しました。ネパールの子供達との直接触れ合う貴重な旅。笑いと涙の楽しい旅。『夢の記』が完成しました。是非ご購入の上ご覧下さい。

何の前ぶれもなくネパールは突然やってきた。築田寺の美智子さんの「ネパールに行かない？」の一言に「行く！」と体がとっさに反応していた。それは出発3週間前の11月末のこと。ヒマラヤにくっついた長方形の国、という以外何も知らない国。でも、ネパールの学校建設支援活動にも参加しヒマラヤが見られる、それだけで十分魅力的だった。簡単な行程表と「ネパールは春、半袖でも大丈夫、人もよし山々も美しく菜の花畑も待っています。」との斎藤さんの情報に気分は小春日和。私が海を飛び越えたのは津軽海峡と関門海峡だけだけれど、海外初体験の不安は朝6時半羽田集合！に間に合うかどうか以外何もなかった。出発のその日から日本の日常と、自分の年齢を忘れてしまった。旅の仲間は7名。私をこの旅にいざなってくれた美智子さんは40年来の友人で、お互いに10才頃のイメージを抱いたまま今新たな友人として、ネパールミカの会長さんでこの旅の仕掛人。一番ネパールの魅力を知ってほしいかった奥さまの初参加で、きつといつにも増してきめ細かい旅を用意して下さったのだと思う。斎藤さんのお姉さまの友人、石井ご夫妻はご主人が旅の記録担当で、カメラ、ビデオを駆使して大活躍。息子さん手作りのピアスが似合う映画好きの奥さまと、本当に仲の良いお二人。香道の先生で優しく上品な市川さんは旅の間の私のルームメイトで、シャワーが止まった！ストーブが消えた！とアクシデントを共有して下さった。そして、関西空港から合流したのは79才の有田さんで美智子さんのおかあさま。7日間のハードな旅に全く疲れも見せず好奇心一杯、まわりにはいつも笑いがあり心身共に驚異的に元気な姿には、前向きに年を重ねていくことの素晴らしさを教えていただいた。その7名を現地で支えて下さったラマさんは、ネパールの優しさとまじめさを人間にしたような青年だった。ラマさんなくてはこの草の根NGOは成し得ないし、私たちの旅もラマさんの誠実なサポートがなければ本当に心細いものだったに違いない。シェルバ族から出たエリートのラマさんの目標は“文部大臣になって教育改革をすること”という。医学を志す妹のジャンモさんを支え、互いに相手を気遣う仲の良い兄妹は誰もが応援したくなるひたむきさがあった。

こんなにも心地よい仲間旅ができたなんて、これもネパールの人通力なのだろうか。不思議な7日間の旅は、まるで何本もの映画を続けざまに見続け心がゆさぶられて、あらゆる感情が体をかけめぐったような日々だった。あの新鮮な驚きと興奮は、この初めての異国の旅のために取ってあったのかもしれないとも思う。ネパールは夜から始まった。身動き取れぬまま飛行機のシートにはまってウトウトしていた時、カトマンДУに到着するらしい、と言う声でのぞいた窓の下に都市らしい夜景は見あたらなかった。ポツポツとひかえ目な光が散らばっていて、その点々をつなぐように目を移していくと窓の正面の間の中にまで続いている。高い山の上の民家の明かりかと目をこらすと、その点々はよく見慣れた形をしている。小さな窓に顔をつけたまま一瞬体が熱くなった。オリオン座だ！色とりどりの宝石を散りばめたような、という形容をされる大都會の夜景ならば、星とつながった単色の夜景の素朴さにこれがネパールなんだと実感する。ラマさん兄妹を迎えられマイクロバスでホテルに向かったカトマンДУの街は、中心街を離れると街路灯もなく町なかの商店は暗闇の中に四角く照らし出されて、奥行きのない店頭に商品がぎっしり積まれている。

道や焚き火のまわりに集まった男たちがシルエットに浮かび上がり、たしかに日本ではない異国に来たことを感じた。それから私の気持ちはなんの抵抗もなくネパールに入ってしまった。初日から一夜あけた早朝、深い霧に包まれたカトマンДУ盆地を見下ろすスワヤンブナート仏教寺院でマニ車をまわし灯明をささげ、祈りの声の中で朝日を迎えた。その帰り道は朝市のにぎわいの中、市川さんと二人寺院からホテルまでの坂道をテンブー（小型オート三輪）に乗り込んだ。人と動物と道路の穴ぼこをよけながら、容赦ないスピードで走る車の鉄棒に必死でつかまり、言葉も通じない、ホテルの名前も覚えていないのに...という不安を胸に気分はインディ・ジョーンズさながら、まさに手に汗握る体験をした。ネパールの日々はこんな風に、静と動が激しく入り乱れた初体験の連続だった。そのすべてが人と自然のやさしさに包まれていたような気がする。予告編も見ず何の予備知識のないまま見た映画のようなこの旅で、私は思いがけず大勢の子どもたちの笑顔に出会った。パルーン村を訪れた時の思い出は鮮烈によみがえる。

4時間近くマイクロバスにゆられてたどりついた山の中の村は、段々畑がきざまれた穏やかな山に囲まれていた。見通しの良い台地の真ん中に、ミカの会が増設工事を支援したセテガネス中学校はあった。素朴な景色の中でひときわ目を引く純白の壁と、その日の空のように青い屋根が石づくりの古い校舎の横に輝いていた。澄んだ空気に汗ばむ程の強い日差しの中、あぜ道を歩いて行った一行はまたたく間に黄色い花でうめつくされてしまう。新校舎を完成してくれた日本から来たお客さまのために、と生徒たちが手に手にマリーゴールドなどの黄色い花を持ってアーチを作り首にかけてくれたのだ。一体どこにこんな沢山の花が、と思うほど大きな花の首飾りをかけてくれる者、道ばたで摘んだような野の花を小さな手一杯にささげ持ってくる者。私たちの顔は花にうずもれて腕には抱えきれない程の花があふれた。その他大勢のつもりが突然主役になってしまったような驚きと感激と、むせかえるような花の香りに頭がぼーっとしてしまった。参列してミカの会からのプレゼントを「ナマステ！」と受け取る一人一人の恥じらいと好奇心に満ちた瞳をまっすぐを受けて、支援になんの協力もしていない私がこんな喜びを受け取っていいのだろうか、と胸が一杯になる。こんな大勢の子どもたちの目をじっと見つめたことは、この人生で初めての忘れられない体験だった。



子どもたちの笑顔はどこでも美しかった。レンガを入れた籠をしょって山道を歩いていた少女たちの笑顔は花のように可憐で、タンセンのホテルに夕食のモモを買いに来た少女たちの笑顔も“はにかむ”という日本語を思い出させてくれた。

ゴムひもをドーナツ状に束ねたような物を得意げに足の甲や踵で器用に蹴って見せてくれた少年は、私の子供時代に見たやんちゃな笑顔だった。そんな笑顔とは対照的に、今でも目に焼き付いている少女たちがいる。パルーン村に向かう途中の山道でヒマラヤを見ながら一休みした時、道沿いからはるか崖下に一軒家が見えた。家の前で遊ぶ子どもたちに手を振ると、あっと言う間に険しい道を駆け上がって来たのは10才から5才位の三姉妹だった。ラマさんの問いかけに、自分の歳も知らず学校にも通っていないと言う。

3人とも素足で元は派手な花柄だった事がわかるワンピースは体を洗うこととも無縁の生活を思わせた。ほとんど笑顔も見せず眉間にしわを寄せて、好奇心を込めた目で私をだまってみつめている。多分三人だけの世界で遊んでいるのだろう。手を振りながら別れる私たちに向かい、三人は寄り添ってそれぞれにあげたオレンジを握りしめて、身動きもせずヒマラヤの白い嶺を背に立ちつくしていた。その後しばらくは皆、様々な思いを胸に考え込んでしまった。「でもあの子たちは近くを車が通ることで、外界と遮断されていないんだよ」という斎藤さんの言葉に、今は通り過ぎるだけの車に乗っていつかは他の世界に出ていくことがあるのだろうかと思う。オレンジの思い出は彼女たちの心にどんな風に残り、どんな未来が待っているのだろうか。発展途上国と言われる国の子どもたちの目は輝いている。ネパールの子どもの瞳も澄んでいて、古都、ダルバール広場物売りの子どもたちでさえ、したたかな瞳の奥に素直な輝きがあった。

旅をした感想に、子どもたちのピュアな瞳に感動したと誰もが言う。日本の子どもたちの瞳だって本当は澄んでいるのに、曇らせてしまったとしたら一体誰のせいだろう。先進国、近代国家と呼ばれる為には子どもたちから、知りたい、見たい、という好奇心、疲れを知らない元気、家族と共にある幸せ、欲しい物がやっと手には入った喜びなどを奪うことでしか成り立たないとしたら、何のための繁栄なのだろう。このアジアの決して豊かとは言えない小さな国に来て、自分たちの失ったものを思いしらされるなんて悲しいと思う。タライ平野の菜の花畑の中に点在する農家には屋根より高く積み藁がこんもりと寄りそい、庭先で箕をふるうおかあさんの周りには子どもや家畜がいて、暇そうなおとうさんはしゃがんだり井戸端会議？をしたり、みんな一緒にいて豊かな光景だった。民族、宗教、キャスト、経済、低い女性の地位など、あらゆる問題が混沌として旅人が駆け抜けただけで一つの国を知ることなど出来はしないけれど、この国には無くして欲しくない物がたくさんあった。多分永遠に変わらないもの、それはヒマラヤ。地球の底知れない力が造り上げた自然の大きさを前にすると、自分など消滅してしまいそうだ。ダマンのホテルの展望台から見た星空と、「雪のすみか」ヒマラヤは今でも夢のようだ。夜はホテルの毛布にくるまってデッキチェアに寝そべり、星空の中に流れ星と共に溶けてしまいそうだった。夜明けには、持ってきた物を全部着込みマフラーと手袋をして毛布をかぶり、日の出を待ち受けた。マナスルの切っ先をコーラルレッドに染めて次々に朝の光に目ざめて行く白い嶺々の無垢な美しさに圧倒された時、ボーイさんが運んでくれたネパールコーヒの温かさは感動と寒さに震える体に優しくしみて、もう欲しい物は何もないとさえ思えた。

今旅から帰って4ヶ月、時折無性にネパールの写真を見たくなくなってアルバムを開く。そこには白い土埃が舞い、ものすごいスピードでトラック、自転車、オート三輪、バイク等が行きかい、クラクション、人のざわめき、生き物の鳴き声、かん高い音楽、祈りの声が響き渡り、ヒマラヤも待っている。帰ってすぐは、体中からネパールが沸き上がっていた。時が過ぎて旅の記憶は遠ざかっていくのに、だんだんネパールが細胞の中にしみ込んで行くような気がする。きっとネパールに呼びとめられたのだ。又、いつかネパールを訪れるだろう。ネパールの大地の結晶が詰まった岩塩を手にする度、タンセンの塩屋で裸電球に照らされた麻袋の香辛料や、挨にかすむバザールの雑踏、象の背中から見た霧の中の太陽、ナガルコットの日の出と日没、カヌーに乗って手を入れた河の水のあったかさ、祈りの旗に彩られたルンビニの菩提樹の太木、そしてタイムトリップした中世の都バタン、バクタブルの圧倒される建築などが、入れ替わり目の前に現れる。その一つ一つを又ゆっくりかみしめる旅がしたい。

人生の節目に、これから自分の道を自分らしく歩いて行ける勇気をあたえてくれたネパール。そんな旅を私に下さった方たち、送りだしてくれた家族に心から感謝を込めて「ナマステ！」



【編集後記】

2000年会報夏号を作成中、郵便局ボランティア預金交付金の決定の知らせがありました。

¥1,253,000.と昨年より減額です。残念ですが計画を変更して地に足の着いた地道な援助を継続したいものです。夢の記の発行に続き結構忙しい日が続きます。第3回夢広場の準備がスタートしました。

どうですか？みなさんパソコンでインターネットに挑戦しませんか？考えているほど難しくありません。年輩の方には特にお薦めします。夢が広がります。